

# 上里北ノ町遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇〇五 一

上里北ノ町遺跡

2006年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

# 上里北ノ町遺跡

2006年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

# 序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は、今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じ広く公開することで、市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用を図っていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ規模の違いはありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できるとなります。

このたび道路新設工事に伴う上里北ノ町遺跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます次第です。

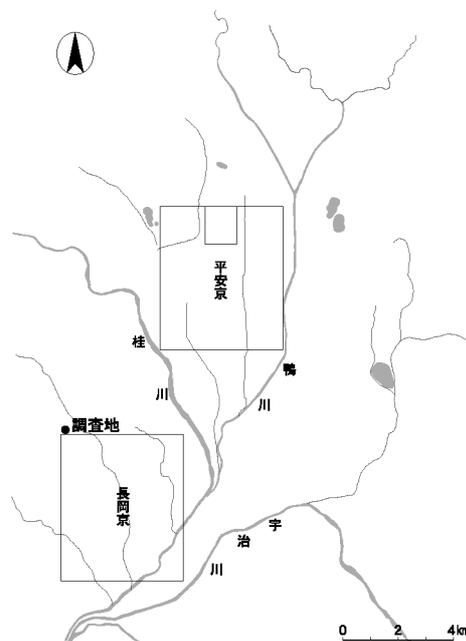
平成18年1月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

# 例 言

- 1 遺 跡 名 上里北ノ町遺跡
- 2 調査所在地 京都市西京区大原野上里北ノ町地内
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長
- 4 調査期間 2005年10月17日～2005年10月28日
- 5 調査面積 127.6m<sup>2</sup>
- 6 調査担当者 卜田健司
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「石見」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺物番号 通し番号を付した。
- 13 掲載写真 村井伸也・幸明綾子・担当調査員
- 14 基準点測量 宮原健吾
- 15 本書作成 卜田健司
- 16 編集・調整 児玉光世
- 17 本書は、2001年度から発刊してきた『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』を、今年度より書名変更したものである。



（調査地点図）

# 目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	2
3. 遺 構	3
4. 遺 物	4
5. ま と め	4

# 図 版 目 次

図版 1	遺構	1	調査前全景（北から）
		2	調査区全景（北から）

# 挿 図 目 次

図 1	調査地点図（1：50,000）	1
図 2	調査位置図（1：2,500）	2
図 3	調査区配置図（1：400）	2
図 4	遺構実測図（1：200）	3
図 5	出土遺物	4

# 表 目 次

表 1	遺物概要表	4
-----	-------	---

# 上里北ノ町遺跡

## 1. 調査経過

今回の発掘調査は、京都市建設局街路部街路建設課による都市計画道路中山石見線の道路新設工事に先立って、当研究所が実施した調査である。

当地は、古墳時代から室町時代の散布地である上里北ノ町遺跡にあたっていることから、遺跡の状況を明らかにすることに主眼をおいた。

調査は、平成17年10月17日に現場事務所を設置し、10月18日から重機掘削を行い調査を開始した。期間中に、地山面で遺構の有無の確認し、全景写真撮影、平面・断面実測図などの記録作業、壁面の遺物包含層より遺物採集を行った。埋め戻しを行い、事務所と周辺設備を撤去し、すべての作業を10月28日に終了した。

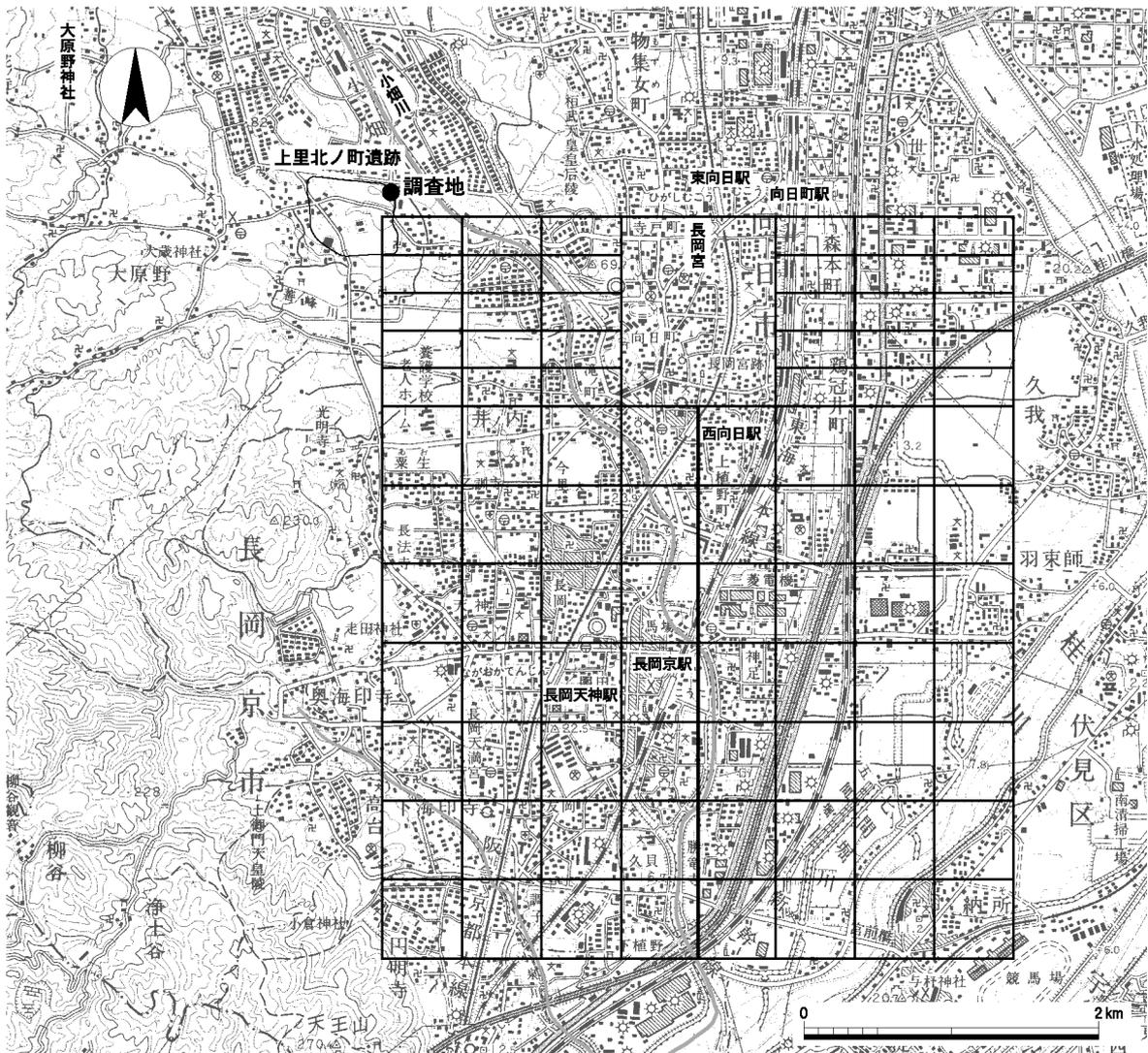


図1 調査地点図 (1 : 50,000)

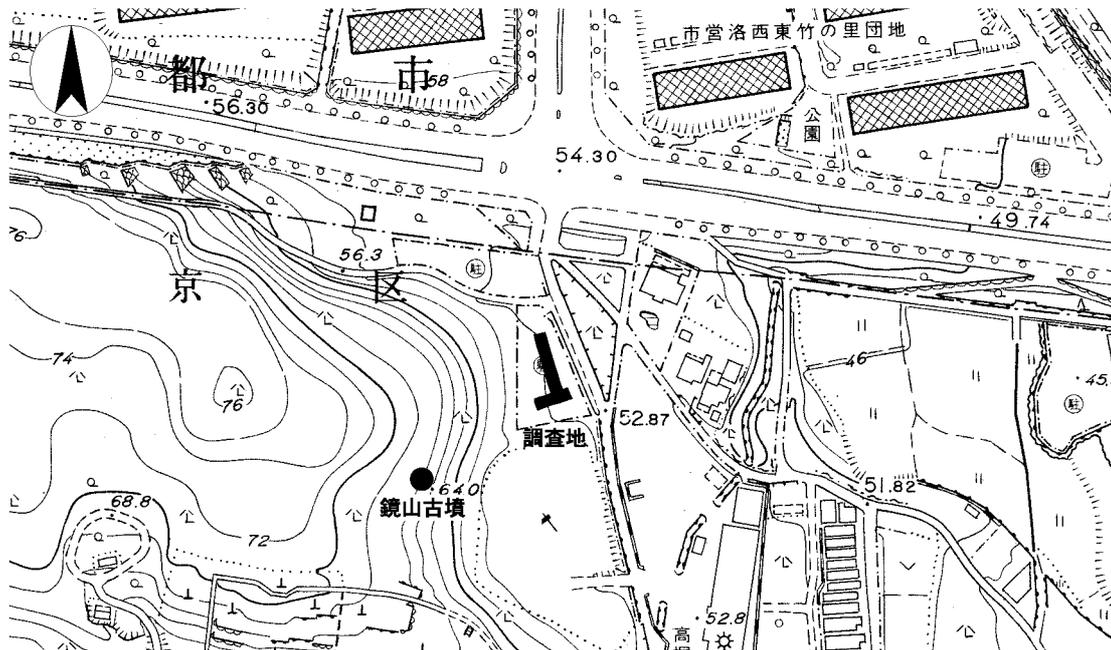


図2 調査位置図 (1 : 2,500)

## 2. 位置と環境

調査地の上里北ノ町遺跡は、西山丘陵の東にあり、洛西ニュータウンの南側、小畑川とその支流の善峰川の合流する西方に位置する。調査地は丘陵の裾部と小畑川の段丘が接するところにあり、南西から北東に向かって緩やかに下がる地形上にある。

調査地の善峰川をはさんだ南東には、縄文時代から弥生時代の墓跡、古墳時代の住居跡、平安時代から室町時代の集落跡（上里遺跡）や室町時代の城跡（石見城跡・上里城跡）などがある。西側に隣接する丘陵地の頂部付近には、古墳時代中期の鏡山古墳<sup>1)</sup>（円墳）がある。この古墳は、明治30年に村人により発見され、葺石・円筒埴輪列が確認されており、鏡・腕輪・勾玉・石製模造品などが出土している。その西には古墳時代後期の石見上里古墳があり、早くからこの地が開かれていたことがうかがえる。

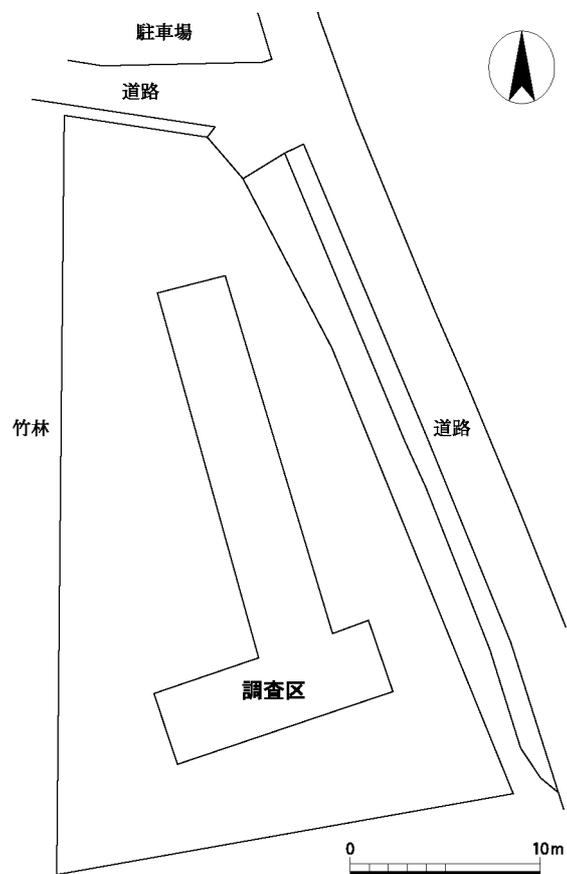


図3 調査区配置図 (1 : 400)

### 3. 遺構

基本層序は、現地表面より - 0.7mが盛土、 - 0.7 ~ - 0.8mが現代の客土、 - 0.8 ~ - 1.4mで近世以降の遺物包含層（褐色砂泥）、 - 1.4m以下が明黄褐色砂泥層の地山である。遺物包含層は、褐色砂泥であるが下方はやや黄色が入る砂泥である。この層の上面は、竹の手入れの際にできたと思われる凹凸がみられた。この層は、今回の調査で唯一遺物が出土した層である。

調査の結果、遺構は無く、地山面で竹林の客土とするための土採取穴とみられる落ち込みを数箇所検出した。地山面は、調査地南西端で標高53.30m、北東端では標高52.50mで、南西から北東へゆるやかに下がる緩斜面であるが、調査地南西部で東へ下がる大きな段差がある。この段差は、もともとの斜面を竹林の手入れの際に削ったものと考えられる。

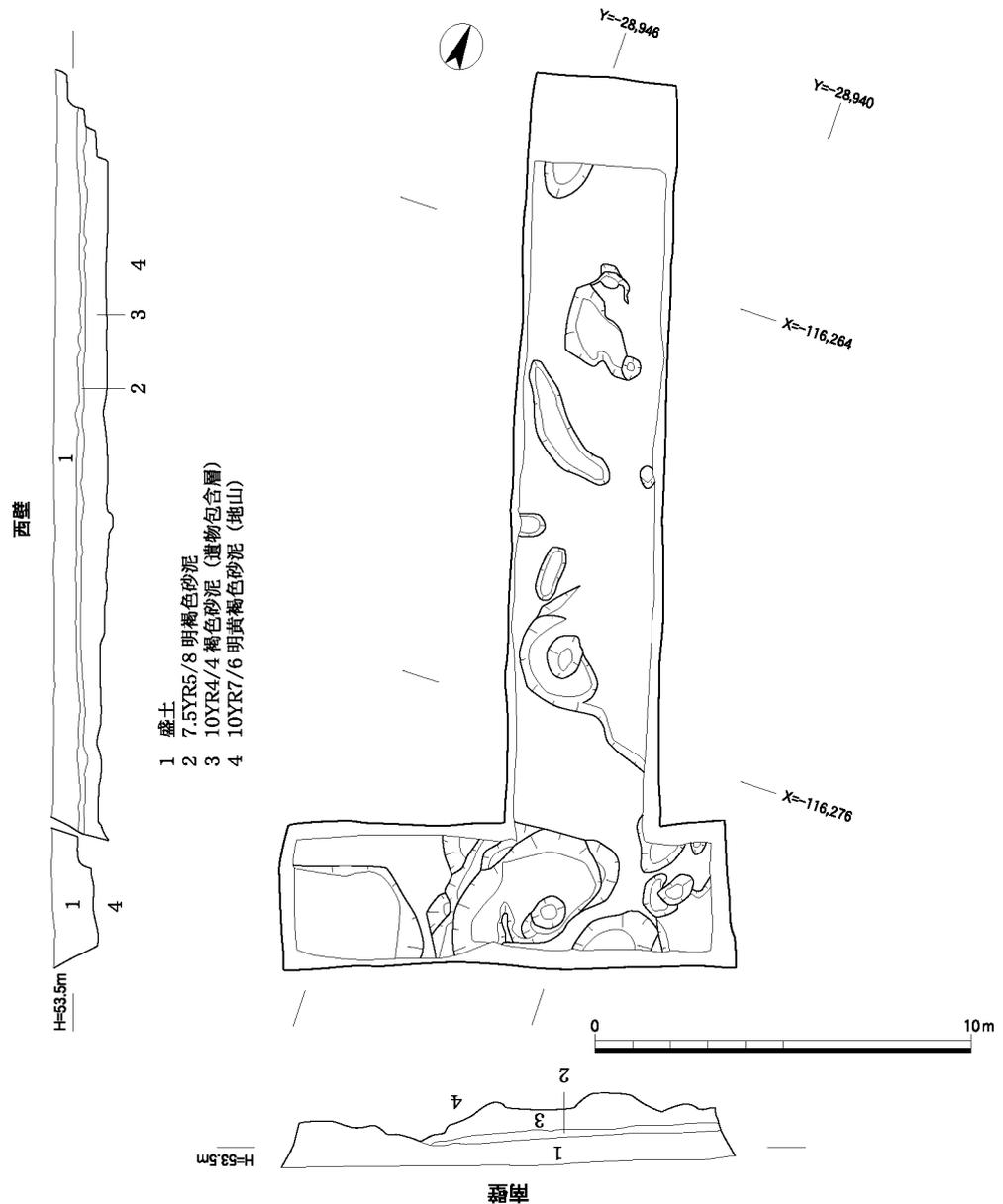


図4 遺構実測図 ( 1 : 200 )

## 4. 遺物

褐色砂泥層（遺物包含層）から、平安時代から江戸時代の土師器・須恵器・瓦器・瓦などがコンテナ1箱分出土した。いずれも小片であり、図示することはできなかった。平安時代の土師器片（1・2）、須恵器片（3）、中世の瓦器片（4・5）、江戸時代の瓦片（6）などがあるが、細かな時期や器形は不明である。

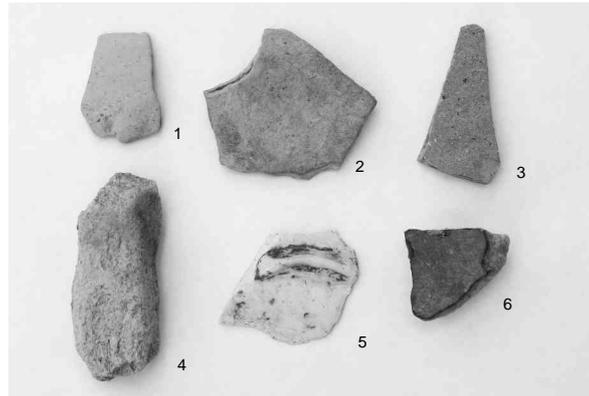


図5 出土遺物

## 5. まとめ

今回の調査は、古墳時代から室町時代の散布地である上里北ノ町遺跡の範囲内に含まれ、遺跡の状況を確認することを目的として実施した。その結果、調査では、丘陵斜面を開削した段差と、竹林の客土として利用したとみられる土採取の落ち込みと、竹林の手入れの結果できたと思われる近世の遺物包含層を検出したに留まり、他の時代の遺構は検出できなかった。

調査地は小畑川段丘と丘陵裾部の接する斜面を開削し、竹林として手入れが行われており、この作業の結果、現状のような平坦な地形に改変されたと考えられる。

今回の調査で遺構が検出できなかったのは、もともと斜面であるため、竹林として土地利用されるに留まったと考えられる。

ただし、調査地の西側には、鏡山古墳が存在し、またその周辺には中世から近世の五輪塔や石仏などが散布しており、この時期の遺跡が存在すると考えられる。

### 註

- 1) 藤岡謙二郎「付・鏡山古墳」『洛西ニュータウン地域の歴史地理学的調査』 京都市都市開発局洛西開発室 1972年

表1 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器・須恵器		土師器2点・須恵器1点		
中世	瓦器		瓦器2点		
江戸時代	瓦		瓦1点		
合計		1箱	6点(1箱)	0箱	少量

※ Cランクの遺物は少量のため、Aランクのコンテナにまとめて収納した。

# 圖 版

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	かみさときたのちょういせき							
書名	上里北ノ町遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2005-11							
編著者名	卜田健司							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2006年1月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみさときたのちょういせき 上里北ノ町遺跡	きょうとしさいきょうく 京都市西京区 おおはらのかみさときた 大原野上里北 のちょうちない ノ町地内	26100	1042	34度 57分 05秒	135度 40分 59秒	2005年10月 17日～2005 年10月28日	127.6㎡	道路新設 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
上里北ノ町遺跡	散布地	平安時代		土師器・須恵器				
		中世		瓦器				
		江戸時代		瓦				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2005-11

## 上里北ノ町遺跡

発行日 2006年1月31日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 075-256-0961